

大好き! ふくしま



細川紙の谷野先生に師事。日々試行錯誤を重ね、技術習得する傍ら、和紙の歴史も独学している皆さん

遠野和紙でつながった 地域との交流を、これからも

福島県の伝統工芸品「遠野和紙」。原料の楮は遠野町で生産されており、和紙を原料から製造している地域は全国でも珍しいといえます。

田舎暮らしに興味があり、夫婦で仕事をしながら移住できることが理想的だったと話す平山さんご夫妻。ALT*としていわき市で勤務していたシルヴィアさんは、工芸品に興味があり転職しました。現在は遠野和紙の継承と発信のため、紙すきや製品づくりのほか、紙すき体験の実施やイベント出展などを行っています。「地元の方がとても温かく、田園風景や星もきれいで自然の美しさを肌で感じられるところが魅力」と平山さんご夫妻。シルヴィアさんも「海外に向けて遠野和紙の魅力を発信していきたい」と今後の抱負を話してくれました。

*ALT…外国語指導助手



遠野町の小中高生と多方面で交流しています

地域の方々と協力して作った和紙製品

いわき市遠野地区地域おこし協力隊

平山 祐さん 綾子さん

(写真右・中央：神奈川県川崎市出身)

シルヴィア ギャラハーさん

(写真左：ニュージーランド出身)

方言がなかなか聞き取れなかったことが一番大変でした(笑)



新聞紙と米袋で作られたエコバッグを持って



こうした活動の輪を広げながら、福島の豊かな環境を引き継いでいけるよう取り組みます。

只見中学校の皆さんから、海洋プラスチックごみの削減に向けた取組についてお話を伺いました。
レジ袋を減らすため、全校生徒で新聞紙や米袋を再利用してエコバッグを作り、町内の店舗で利用してもらっているそうです。「この取組を世界中に知って欲しい」という皆さんの思いに感動しました。

只見中学校の環境に配慮した取組に感動しました。

